

# 6次産業化優良事例表彰で早和果樹園が農林水産大臣賞を受賞!

## 第2回 6次産業化推進シンポジウム～農林漁業の未来創造戦略～



①「夢の描ける農業をやろう」と6次産業化を始めた早和果樹園の秋竹社長。  
 ②早和果樹園のみかんを加工した商品。10年後には売上高50億円を目指す。  
 ③6次産業化に取り組んでいるモデルとなる先進事例6事業者が表彰された。

2014年11月25日(火)開催  
 主催：野村アグリプランニング&  
 アドバイザー株式会社  
 協賛：農林水産省

### 農林水産大臣賞

株式会社早和果樹園(和歌山県)

### 食料産業局長賞

有限会社柏崎青果(青森県)

株式会社いでぼく(静岡県)

株式会社恵那川上屋(岐阜県)

やまいもまつり有限会社(山口県)

株式会社お菓子のポルシェ(沖縄県)

第2回シンポジウムでは、6次産業化に取り組む50の事業者(自薦・他薦)の中から、収益性、成長性、バリューチェーン、イノベーション、地域貢献、社会貢献といった幅広い項目について、現地調査やプレゼンテーションを重ね、6事業者が表彰された。審査委員長の東京大学大学院教授の本間正義氏からは、「日本農業の裾野の広さや新たな日本農業の息吹を感じた。

6次産業化は、掛け算にとどまらず、それを越えて新たなイノベーションを作り出すことなくして、成功しないであろうと思いましたが」と総評が語られた。

また、農林水産省食料産業局長の櫻庭英悦氏からは、「今後は、『グローバル』と『ローカル』をどうつないでいくかが6次産業化前進のカギ。『グローバル』は、海外に向けて日本の素材、食の技術を提供していくこと。

『ローカル』は、1次産業が加工・流通の部分を取り込み、付加価値を高めて、地域に雇用、所得を生んでいくということ。そういう意味では、先駆者として取り組んでいる6次産業化は、地域全体の成長を産業化していくひとつのツールだと確信しています」といったコメントが寄せられた。

※表彰された6事業者の取組は次号(6channel vol.12)の特集で紹介!

## 第6 6次産業化ポータルサイト

www.6-ch.jp/

6次産業化の取組を支援するポータルサイトとして、これからも情報発信していきます!



### フリーペーパーのご案内

本誌のバックナンバーをダウンロードできます。是非ご覧ください。

▼フリーペーパーのダウンロードはこちらから  
[https://www.6-ch.jp/fp\\_contact/](https://www.6-ch.jp/fp_contact/)

▼メルマガ会員登録はこちらから  
<https://www.6-ch.jp/melmaga/>

▼農林水産省食料産業局フェイスブック  
<https://www.facebook.com/maff.shokusan>

■バックナンバーの印刷物をご希望の方は、第6チャンネル(Webサイト)のTOPページ「お問合せ」より、「詳細」欄に「フリーペーパー希望」とご明記の上、ご希望の号数と送付先、郵便番号をご連絡下さい。送料実費にてお送りいたします。なお、数に限りがございますので、在庫が無いバックナンバーにつきましては、印刷費、送料実費にてご提供いたしますので、ご相談下さい。



## 編集後記

「商品づくりにはストーリーが必要」とよく聞く。ストーリーとは何だろうか。生産地の自然や生活文化の中で育てられてきた農林水産物の地域性、製造過程の独自性、関わる人たちの努力の足跡など、それらが織りなす物語ということだろうか。

沖縄の八重山地域には「ヌチグスイ(命薬)」という言葉がある。人を元気にする体に良い食べ物のことだ。なかでも薬草は「ヌチグサ(命草)」と呼ばれ、島の人は身近にある植物の恩恵を受けて暮らしてきた。そのひとつに長命草がある。

長命草は大手メーカーが製品化し、広く流通するに至っているが、優れた成分に加え、この植物が島の人の暮らしを支えてきた事実を背景に独自のストーリーを提示している。

八重山地域は「命草」が溢れるところで、夜香木、蝶豆、ツボ草、島胡椒と挙げていけばきりが無い。このような身近な資源こそ地域の比類なき強みであり、それはまた日本が世界に誇れるものとして大きな価値を生むはずだ。「足元にある大切なもの」から始まるストーリーこそ、6次産業化の原点である。

編集長 奥野 俊志

### 6次産業化フリーペーパー

「第6チャンネル」vol.11 (2015年2月発行)

編集人：奥野俊志

編集・取材：奥野俊志、河原木徹、菅野康子、浦岡伸行、金森真粧美

デザイン：安野真由美

制作協力：平成ソフト

